Keio University

東村山三田会 Vol. 8

発行人：紿田俊哉　編集人：東村山三田会会報編集委員会

新会長挨拶

紿田　俊哉

1968 年法学部法律学科卒の紿田俊哉です。本年 4 月 21 日の第 4 回東村山三田会定期総会で会長に選任されました。同時に選任されました新体制の役員諸氏とともに、今後、本会の発展に尽力してゆく所存です。会員各位の引続きのご協力と当会企画行事への積極的なご参加を改めてお願い致します。

東村山三田会は、創立 2014 年 4 月ですから早や 4 年が経過しました。現在、当三田会が運営面で活発な活動ができている背景は、創立以来これまで 4 年間、会長として貢献された松田さん、創立時の立役者であり役員としてもご尽力頂いた清水さん、澤田さん、初代幹事長として貢献された河邊さん、さらに、歴代役員の皆様のご尽力に負うところが大きく、謹んで感謝の意を表する次第です。

当会会則第 2 条に、「 本会は、会員相互の親睦・交流を深めるとともに、地域社会の発展に貢献することを目的とする」とあります。

よって私もこの 2 点を念頭に、新役員とともに当会の健全な運営と発展に尽力したいと考えます。

第 2 条の前段については「会員相互が家族を含めてその楽しみを共有すること」と理解し、先般の総会時に 2018 年度活動計画の中でご説明いたしましたとおり、具体的には毎月開催でしっかり定着してきた各種同好会活動や、4 ヶ月毎、年 3 回開催の会員誕生日お祝い会等のいずれもその内容を更に充実させ、家族を含めて大いに楽しみを共有できるようにしたいと考えます。

加えて、近隣三田会、稲門会の皆様のご参加も大いに歓迎するものであります。

第 2 条後段の「地域社会の発展に貢献する」については、難しく考える必要はありません。現在の当会の体力を踏まえ、先ずは意義のある企画を実行してゆくことで、結果的に地域社会の発展と貢献につながれば良いと考えます。

具体的にはすでに日程が確定している DUO の会コンサート（協賛と演奏参加）を市民の皆様とともに楽しむことや、多少手間と費用が掛かることからもう一工夫が必要ですが、先の総会時の講演会のごとく、多くの方々に分かりやすく、かつ大いに興味を持っていただけるテーマをよく検討し、広く市民の皆さんも含めて共に楽しんでいただくことが出来たらと考えます。

末筆になりますが、会員の皆様の積極的なご参加と引続きのご協力をお願いして私のご挨拶とさせていただきます。

紿田俊哉（Toshiya Taida ）Profile

1945 年 3 月 5 日長野県伊那市生まれ。伊那北高等学校、慶応義塾大学法学部法律学科卒。住友商事、住

商オットー、エディー・バウアー、モンリーブ　(Feiler)、ストッケ・ジャパン勤務を経て 2010 年、65 才をもって社会人を卒業。

スズキ・メソード世界大会実行委員会 advisor，ワグネル・ソサイエティー・OB オーケストラ代表を歴任。現在スズキ・メソード OB・OG 会副会長、東村山三田会会長

講演：最新 AI と社会への影響

慶応大学理工学部　山口高平教授

会長職を終えて

松田　博

2018 年 4 月、第 4 回定期総会を期に、会長職を退くことになりました。

東村山三田会を結成するまでの約 3 年間、会長職 4 年間の 7 年間、塾員として、何とか東村山市に慶應義塾の名を刻みたいとの思いで活動してきました。その時間を振り返ってみる今、これでようやく「東村山三田会」の土台が出来たのだ、という感慨が熱くそして深く胸を突いてきます。これは、活動の要となる役員の人事構成から始まり、会則第 2 条にも明記した、「会員相互の親睦・交流を深める・・」「地域社会の発展に貢献する」といった目的を揺るぎない土台として強固に敷く事が出来たという自負からのものだと思っています。役員の人事構成においては、年代に差のある事はいうまでもない事ですが、日吉キャンバス・三田キャンバス等々、同じ学舎の空気を吸った者同士とはいえ、面識がないにも関わらず、一度集まって顔を突き合わせて対話に入ってみますと、不思議な事に昨日来の知友といった親しみが感じられました。それは言うまでもなく、慶應義塾創始者である福沢諭吉先生の崇高な教えが、塾員各々の身体のどこかに浸透しているからなのだ、と思わずにはいられないものでした。これは、集まった役員のみに限らず、会員となられた塾員の皆さんにも同様です。それは卒年を共にした同期の彼等との懇親の宴を持った時の感覚とまさに相似しています。

従って「会員相互の親睦・交流を深める・・」は、特に努力せずとも叶えられたということが言えます。

この現象は、各同好会に顕著に見る事が出来ました。

さらに「地域社会の発展に貢献する」に至っては、その年度の役員の一致団結で、地域の住民の興味をそそる、そして内容に教養の味が少しでも混ざった講演会を、年 1 回、地域住民に向け積極的な PR を展開し開催しました。しかし、参加者は予想に反して少なかったことはありますが、参加された市民から、さすが慶應のやることだ、といった褒め言葉のあったことは嬉しいことでした。

会長在任の際には、役員・会員の皆様に多くの協力をいただき有難うございました。特に役員の皆さんには、多忙をおしてまで、打ち合わせ等に快く参加いただき、会の運営に誠意努力していただいたことに.改めてお礼を申し上げます。

最後になりますが、この度、改選にあたり、新役員となられた皆様が、会長・その他の役をこころよく快く引き受けていただいたことに感謝申し上げます。

初代会長として、東村山三田会が今後さらなる充実した活動を展開されることを祈念いたしております。

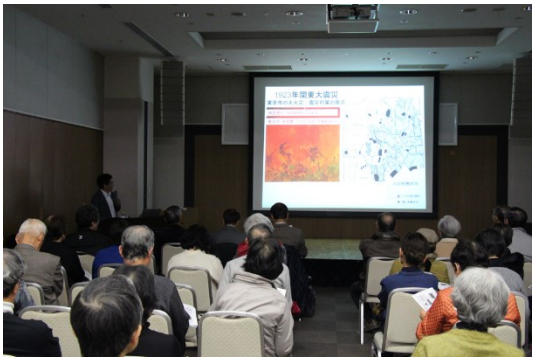
第 3 回講演会

斉藤　忠義

日　時　2018 年 1 月 20 日

テーマ　　「首都直下地震の被害想定と過去の震災に学ぶ地震予防対策」

講　師　　工学院大学教授　久田嘉章氏



2016 年 4 月の熊本地震は、震度階級では最も大きい震度 7 が 2 回発生し大きな被害となりました。

今回は、震災に備えた安全なまちと建物を実現するための研究を行っている久田教授に講演を行っていただきました。

関東大震災の死者は 10 万人、焼死が 8 割、阪神淡路大震災の死者は 6 千名、建物圧死が 8 割、東日本大震災は死者 2 万人、溺死 9 割であり、プレートの移動か、活断層か、巨大津波の発生か、震源地が浅いか、深いか等の相違で被害が異なることがわかります。

内閣府は、首都直下地震（M 7 以上）は、今後 30 年内に起きる確率は 7 割と報道しています。

昭和 56 年に新耐震基準が制定され、熊本地震では、新基準後の建物の倒壊は少なかったそうです。

災害は想定外の連続であり、事前の減災準備と事後の柔軟な対応及び復旧により、その教訓を次の対策に反映させるという、レジリエンスな災害対策が求められるとのことです。

東日本大震災では、一斉帰宅による混乱が起き、むやみに移動しない、落ち着くまで会社や学校、施設で待機するなどの対策をとることになりました。

また、避難施設や避難場所に逃げずに、まず、消火・救援・救護活動を行い、自分たちの町を守るという地域連携が求められるようになりました。

一時、活断層である立川断層による直下型地震が、明日にでも起きても不思議はないとの報道もありまし

たが、万年単位のサイクルであり、そう心配することもないとのことです。

改めて、大震災のような災害は、自助、共助が求められることが良くわかりましたが、居住地では高齢化している現在、どのような訓練を行い得るのか課題もあります。

市民の皆様や近隣三田会、稲門会の皆様が多数ご参加頂きましたことをご報告いたします。

忘年会が開催されました

斉藤　忠義

2017 年 12 月 17 日（日）に、東村山駅西口サンパルネ・コンベンションホールにおいて、2017 年度忘年会が開催されました。

今年は会員 23 名、来賓 8 名、合計 31 名の方に出席いただきました。

来賓として、塾センター（北村課長）、東村山稲門会（大内会長、岡田副会長）、小平三田会（吉川会長）、西東京三田会（坂口会長、樋口副会長）、所沢三田会（稲村副会長、山本幹事）の方々にご出席いただきました。

会長挨拶後、「久米川スキット」の皆さん 12 名による、ミュージックベルの演奏が行われました。クリスマスも近いことからクリスマスソングからスタートし、荒城の月などの名曲を情緒たっぷりの演奏で聴かせて頂きました。途中から、演奏に合わせて歌う演出でしたが、恥ずかしさと年齢のせいか大きな声は出ませんでした。歌詞カードを用意すれば良かったかと、反省しております。

演奏終了後、来賓者の紹介があり、義塾の代表として、塾センターの北村課長から塾の現況についての話があり、日吉記念館がすでに取り壊されたとの報告がありました。

次いで来賓者の代表として、西東京三田会坂口会長からご挨拶をいただきました。

堀川さんの乾杯のご発声で懇親会に入り、しばらく懇談の後、櫻井さんの進行で、恒例の「ビンゴゲーム」が開始されました。今年もシクラメンやポインセチア、お酒、慶応グッズなど、多彩な賞品を用意して、にぎやかに「ビンゴゲーム」を楽しみました。番号を呼べども不思議に沈黙が続き 10 分位経過したところでやっとリーチの声が出始めました。先にビンゴした人が好きな賞品をゲットしますが、昨年同様にシクラメンやポインセチアなどの花が先になくなりました。お土産としてお持ち帰りになり、ご家族の方に喜んでいただけたでしょうか。

高齢者が多いので、今年から全員がテーブルに着席する方式としましたが、これは好評でした。

最後に早稲田大学校歌、慶応賛歌、丘の上、若き血を合唱して閉会となりました。

「第８回誕生会」が開催されました

岡崎 尋幸

第８回誕生会が２０１８年２月１７日(土)東村山駅西口和食「ひら川」で開催されました。今回は３，６，９，１２月生まれの方３１名が対象で、内６名と役員５名の計１１名が参加しました。

時節柄寒さで外に出にくいからでしょうか、これまでに比べやや少な目の人数でしたが、その分お互いの距離感が縮まり、中味の濃い懇親会となりました。

誕生会は既に三巡目に入り、年間行事としてすっかり定着しました。もう皆さん勝手が分かっていますので、乾杯の発声が済むや直ぐに賑やかなお喋りがはじまります。話題と言えば顔触れから健康、介護、医者通い、年金等が大方の相場ですが、健康談義では山梨、長野両県に跨がり星空を見ながら夜を徹して数十キロを歩くウォーキングイベントに、毎年の様に参加しているとの話がＳさんから披露され、その体力、気力、タフさに一同感服でした。

会場の和食「ひら川」は今回で３度目とあって店側の対応も手慣れたもの、料理等心得てくれるので居心地良く、話は弾み、酒は進み、つい長尻となり予定時間を大幅に超過してお開きとなりました。加えて予算も超過気味に。そして恒例の花束贈呈で締め括りです。これは何度貰っても嬉しいもので、プレゼンターの朝木役員としっかり写真に収まります。本会 HP の誕生会のページに皆さんの笑顔が沢山アップされていますので、是非ご覧ください。

締めでの櫻井役員の「三田会の設立があったお陰で、見知らぬ人としてただ擦れ違っていただけかも知れない会員と、今こうして何でも話せる仲間となっていることに感謝したい」との挨拶が印象に残りました。仰る通り、折角のご縁です。誕生会などはまさに親睦を深めるに格好な機会です。未だ躊躇されている方…参加をお待ちしています。

慶應義塾卒業５０年「大学入学式」「塾員招待会」に参加して

小島　安雄

去る４月２日の月曜日、まさに桜花爛漫の下、慶應義塾大学の２０１８年度入学式が執り行われた。義塾では、卒業５０年の節目を迎えた塾員は大学入学式に招待されることになっているが、今年は昭和４３年（１９６８年）卒業の私たちが招かれることとなった。

日吉記念館が建て替え工事中のため、大学入学式はパシフィコ横浜、塾員招待会は横浜ロイヤルパークホテルと、キャンパス外での開催となったのは少々残念だが、事情を考えるとやむをえない。

新入生は総数６,５２８名、保護者席は満員、我々卒業５０年参加者は約１,５００名と、会場は熱気に包まれていた。長谷山塾長は式辞で、福沢諭吉の教え・精神やエピソードを交えつつ、「目標を見つけ、目標に向かって努力し、目標を達成する」ことの大切さを、淡々と新入生に語りかけた。

その後、ひな壇上の理事・学部長等の紹介、教職員代表で文学部山本教授の祝辞があったが、何といっても白眉は医学部Ａ君の「新入生代表入学の辞」であった。本日入学日より産婦人科医を目指し不断の努力を重ね、出産の喜びを世に伝えることで日本の少子化問題解決に貢献し、同時に世界を舞台に活躍する医師を目指すという力強い決意表明であった。 皆が感動し、惜しみない拍手を送った。

卒業５０年の昭和４３年三田会からは、長谷山塾長に寄附目録贈呈がなされた。寄附金額は、６,４８４万円。過去最高金額だという。昭和４３年当時の卒業生総数から、「死去・不明・海外・不要」の人数を差し引いた現時点での卒業生総数（有効人数）は、４,６４６名であるが、実にその４１％にあたる１,９００名余からの浄財である。そして本日、約１,５００名が５０年後の新入生を見守るべく全国から参集したのだった。この大学の卒業生で良かった、この大学を誇りに思うという卒業生の気持ちの結果であろう。これに永遠に応えてくれる大学であり続けてほしいと思う。

我々同期生を代表して、佐治信忠会長は新入生に対し「世界に出て、自分の目で世界を見て、実感して、そしてチャレンジせよ」と壇上から大声で力強くエールを送った。最後に、５０年前の新入生と５０年後の新入生が一緒に歌った塾歌は格別のものだった。

引き続いて塾員招待会は、横浜ロイヤルパークホテルに場所を移して行われた。厳粛な趣の大学入学式とは違って、長谷山塾長の挨拶もそこそこに旧交を温める輪が広がった。卒業後５０年の招待会があるなら、次は７５年招待会をやってほしいという声もあった。今は人生１００年時代、意気軒高な人たちに囲まれていると、卒業後７５年招待会もありかなと本当に思うのであった。

同好会通信♪

☆慶美会(スケッチ同好会) ☆　清水　英男（７名）

【世話役　清水英男（S38 年卒）　連絡先　hidshim@jt.ejnet.ne.jp　TEL　090-2655-9231】

東村山三田会が設立された年の秋に当会も７人のメンバーが集い発足しました。年齢差が３０才近くもあり、画歴や画風、油絵や水彩画等ジャンルもそれぞれ異なり、同好会として本当に継続できるか当初心配しましたが、全くの杞憂で、今日まで３～４回／年のペースで活動し、毎回殆どのメンバーが参加してスケッチや懇親会を楽しんでいます。

また何らかの事情や雨天で流会になったことも一度も無く、それが皆の自慢でしたが、今年の１月に予定していた会は、直前に都合の悪い方や体調の悪い方が続出し初の流会を経験しましたが、５月の小平ふるさと村（２回目）のスケッチ会は今迄と変わらず全員出席でした。

野外スケッチは気候の良い春、秋に、暑い夏と寒い冬は室内で人物や写真による風景の画作を原則としていることも全員参加の一因かもしれませんが、何よりも全員の絵や画作に対する熱意や真摯な姿勢と気楽に皆で一緒に楽しもうという雰囲気が共有されていることだと思っています。

絵を描いている時は皆集中していることや、野外スケッチの場合はそれぞれが好きなポイントを選んでいるため殆ど会話が無いことから、その後に必ず懇親会を行い、描いた絵を見せ合ったり色々絵の話をして盛

り上がっています。遠慮の無い感想や画歴の長い方々のアドバイスを頂くのも楽しみです。

以前会員の大滝さんが述べられていますが、お互いに褒め合うばかりで、決してけなすようなことはありませんので、下手の横好き代表の私でも図に乗って披露しています。

世話人の私として感謝していることは、開催日を除きスケッチの場所や室内のモチーフ、懇親会の場所や費用等々全ての企画は私の一存で決めてご案内していますが、大先輩の方々や皆様何方からもご異論無く参加して頂いていることです。

皆様のお人柄とさすが三田会の同好会であることによるものと感じ入っています。

時期が来たら参加したいという方々が数人おられるので、その日が早く来ることを一同楽しみにしています。次回は８月に室内スケッチを予定しています。

佐藤辰弥 志賀山

大滝 恒雄 地震の跡
少し残るも庄内田

千保　潔 土塀のある風景

堀川朝子 あやめの里

☆俳句同好会☆　　鈴木　実　（８名）

【世話役　佐藤嘉江子（S57 年卒）　連絡先 kae_ztjjz@yahoo.co.jp　TEL　090-1734-7582】

「俳句の会」に参加してから早や足掛け３年目になりましたが、一向に上達せず、いつになったらまともな句がつくれるかと思いつつ、毎月の句会に参加しています。

そもそも「俳句の会」に参加したきっかけは、2016 年の４月「あるいて三田会」の行事で市内北東部秋津周辺を歩いた折です。廣田さんから今日より「あるいて三田会」に加わった佐藤さんとは「俳句の会」で一緒に活動していると、紹介されました。

私は水墨画を習い始め、絵に句をつける俳画を旧友や知人に季節のあいさつ代わりに送りたいと思っておりました。そこで俳句の入門書を読み始めたばかりと話したところ、佐藤さんが「俳句の会」の活動内容を説明してくれました。

後日、佐藤さんからメールでのお誘いを受け、翌月の句会から参加することとなりました。

俳句を始めてから歳時記を開くようになり、俳句とは四季の自然の変化が克明に表れた日本独特の文化だと感じています。

「日が長くなったなあー」とか、「庭の紫陽花がそろそろ色付きそうだ」とか、生活のなかでの身近な変化

を意識するようになりました。初ガツオを食べたり、近所で田植えの作業をながめたりする折に、昔の人たちの暮らしぶりも意識するようになりました。

俳句はいまでも、文語・旧かなでつくる人が圧倒的に多いのですが、特に文語のもつ日本語の豊かさには感心させられ、また言葉の厚み、深みに気づく機会ともなりました。

俳句は小説、絵画、音楽など鑑賞するだけという楽しみ方がなく、まったくの初心者が作者になるという点に大きな違いがあります。

なかなか上達しないなかで、俳句を鑑賞だけの対象として楽しむか、ダメ句を作り続けていてもいずれは多少まともな句がつくれるのか、非常に悩ましいところであります。

毎月の句会に参加するために月に３句をつくることだけでも、怠け癖のある私にとってよい縛りとなっています。句会はベテランの廣田さんから厳しく、かつ的確な指摘を受けながら、メンバーみんなが遠慮なくお互いの句を批評・鑑賞し合う楽しいひと時でもあります。

私が「俳句の会」に加わってから新たな会員がおりません。こんな私でも優しく受け入れてくれる懐の深いメンバーばかりです。安心して「俳句の会」のメンバーになりませんか！？

立春や朝餉のおかず季の野菜	**蓑**
荒城に黄泉の迎へか花筏	**栗丸**
薄墨にけぶる山すそ夕桜	**丸女**
凜と鳴る神の宿りし破魔矢鈴	**弦六**
春愁を拾ひつ古寺の石を踏む	**凡水**
まさおなる空登りゆく花こぶし	**洋子**
長閑けしやテニスコートにラリーの弧	**かえる**
雷雨激しあとは余白の日記帳	**岳徒**

☆あるいて三田会東村山☆

阿部　治子（１５名）
【世話役　鈴木　実（S50 年卒）　連絡先　minoru_s@1975.jukuin.keio.ac.jp　TEL　090-6539-8336】

今回は、東村山市の歴史散歩道「狭山公園・石仏コース」を参考にして散策しました。

西武遊園地駅→多摩湖堤防→十二段の滝→狭山公園→氷川神社→赤坂庚申塔→みどりの散歩道(廻田緑道)→せせらぎの散歩道→みどりの散歩道→富田家の宝篋印塔（ほうきょういんとう）→金山神社→昼食(石庭こまち)→光明院→宝珠寺→解散

5 月 28 日、市民でしたら誰もが行ったことのある多摩湖の堤防（村山貯水池）から歩き始めました。

残念ながらお天気は曇り、心の目で富士山を見ながら男 7、女 4 名でスタート。堤防でジョギング中の会員（佐藤　真和さん）に会い、男性陣が強権発動(？)、少しの間一緒に歩き、カメラのシャッターを押してもらい別れました。

堤防から十二段の滝に沿った階段を下りましたが、上段は草が生い茂り、今や滝の面影はありません。下段の方は多少水がありましたが滝とは見えず、会員が幼い時ここで水遊びをしたことがあったと聞きびっくり、時の経過を感じました。

公園内は整備され、ヤマボウシ・アベリア・カシワバアジサイなどを見ながら氷川神社へ。ここはスサノオノミコトを祀っており、多摩湖の湖底に沈んだ村々の信仰をあつめていたようです。

公園を出、道標もかねていたという赤坂庚申塔に向かう。今は舗装されていますが、この庚申塔のあたりは中世からの古い道で滑りやすい赤土の坂道だったとか。付近には馬頭観音や石橋供養塔もありました。

ここまで来るのに、歩くのが遅いわけではなく、それぞれ興味の対象が様々で時間を取ってしまい、行くはずの所を一部カットし廻田緑道へ。キバナコスモスが咲き、木道が続くおしゃれな緑道からせせらぎの道に。ホタルやサンショウウオが棲息していた自然の残るせせらぎの道から緑道に戻り、富田家の宝篋印塔に行くはずが見つからない！何人かの人に聞いても？？？　昼食の予約時間もあるので金山神社に行き、お参りし、昼食を予約していた「石庭こまち」でホットと一息。11 人同じテーブルでワイワイ楽しくうどんを食べました。

食後は光明院へ行き市有形民俗文化財の応永の板碑や子授け地蔵を見、広く整備された宝珠寺で解散しました。多摩湖・廻田町に馬頭観音や供養塔などが道端にひっそりと置かれているのが印象的でした。

集合 9 時　解散 13 時 30 頃、ちょうど身体には程よいウオーキングでした。

☆ボウリング同好会☆　　斉藤　忠義（１５名）

【世話役　紿田俊哉（S43 年卒）　連絡先　t.taida-vn@i.softbank.jp　TEL　090-6540-3927】

毎月、第 3 又は第 4 月曜日に新青梅街道沿いの久米川ボウルで開催しています。

久米川駅近辺の飲食店に 11 時半に集まります。

主なお店は、ダイヤ寿司、梟（湯葉料理）、あら川、玄治（そば）、サワディ（タイ料理）、蕎心庵などです。

ご夫婦での参加を歓迎、ランチのみ、ホウリングのみでも構いません。ゲームは 2 ゲームですが、1 ゲーム無料券が時々入手できること、皆さんマイシューズなので安い料金で済みます。靴代 5 回分くらいで、マイシューズが買えるのです。

右の写真のように女性のスコアが男性を上回ることも時々起きますので油断はできません。

今までの最高点は 193 点、最低は 30 点くらいです。

ランチのみ、ボウリングのみでも構いませんので、一度参加して見ませんか。

☆麻雀同好会☆　小駒　基一郎（１６名）

【世話役　田中康之（S52 年卒）　連絡先　vvtanaka@m7.gyao.ne.jp　TEL　080-6528-0202】

50 年卒の麻雀同好会の小駒です。

麻雀同好会発足時から参加させていただき、毎回楽しい時間を過ごさせています。

麻雀は、打ち手の性格も出ますし、その日の運・不運もあり、誰が上位に入るか等深みのあるゲームだと思います。麻雀同好会では毎月 1 回対戦を行っています。土日祝日で参加者の多い日に、２卓か３卓で対戦しています。今年４月は人数が 1 人足りず、所沢三田会の麻雀同好会から応援を頂いて 3 卓 12 名での対戦を行いました。

若い方・女性の会員がいないので是非参加していただき、世話役の田中さんを中心にこれからも同好会の一員として盛り上げていきたいと思います。今年前半の成績は清水さんが絶好調です。

1 月は稲門会との慶早戦で、清水さんが 3 連覇を達成しました。

開催月	2018 年 1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
優勝者	清水	清水	清水	河邊	飯塚

＜慶早戦＞

☆食べあるくかい？(グルメの会)☆　斉藤　忠義（２０名）

【世話役　櫻井正廣（S46 年卒）　連絡先　msgemini30@gmail.com　TEL　090-1767-1617】

第 8 回目は、2018 年 5 月 24 日（水）午後 5 時半から、久米川駅南口徒歩 3 分の魚武（うおたけ）で開催されました。

長澤コーヒービルの裏側の道沿いにあります。

今回は、開催日までの期間が短く、知名度も低かったようで、常連会員 9 名の参加者となりました 。

ネットを調べると、新鮮な魚介類と地酒専門店 、「おやじの隠れ家」と呼ばれているようです。

焼酎が飲めない私は知りませんが、焼酎のブランド森伊蔵とか魔王とかあるそうで、お酒と魚が好きな方には好評のようです。カレイは、コースにない特注だったのですが、新鮮でおいしい一品でした。コースの最後に鯛飯が出ましたが、これはお勧め料理で、そのままでも、お茶漬けにしても絶品でした。

世話役の櫻井さんも回を重ねるにつけ、市内でおいしい店を探すことは容易ではないと思いますので、どなたかお勧めのお店があったら是非お知らせください。

☆ゴルフ同好会☆　　阿蘇　秀男　（１４名）

【世話役　阿蘇秀男（S49 年卒）　連絡先　nadeshiko.aso.1710@jcom.home.ne.jp　TEL 080-6772-8473】

第 6 回コンペ開催（5 月 29 日　於：立川国際 CC）

天候は曇時々晴で暑くもなく、寒くもない絶好のコンディションのもと、前回（昨年 10 月 26 日開催）に引き続き立川国際 CC（奥多摩コース）にて、参加者 8 名で開催。

今回は、クラブ主催の 29 日にちなんだ「お肉コンペ」にも参加し、参加賞（ボール 3 個）を頂き、コンペ優勝を目指して、9：10 にスタートを切りました。

三田会コンペの成績は、最年長の廣田さんが昨年の秋に続き 2 連覇を果たし、ベスグロも獲得。グリーン周りの寄せのうまさ、パットのタッチの良さは、年輪を感じさせます。武田さんは同スコアでしたが、年齢差で 2 位となりました。前半、後半ともに 49 で安定したゴルフを見せてくれました。3 位には、河邊さんが入り、なんと上位 3 人は昨年の秋と同じ方々が入りました。力が安定しているのでしょうね。

ニアピン賞は、小駒さん（IN2 番/169ｙ）、神尾さん（IN8 番/135ｙ）、阿蘇（OUT15 番/161ｙ）廣田さん（OUT17 番/201ｙ）がそれぞれ獲得しました。

特別賞として小駒さんが、大波賞（前半 58、後半 44）とバーディー賞を獲得しました。

クラブ主催の「お肉コンペ」は 93 名の方が参加し、上位入賞はなりませんでしたが、飯塚さんが順位賞を取り、美味しいそうな牛肉をゲットしました。

プレー後は、お茶と軽食をとり、各自が持ち寄った賞品（千円程度）を成績順に好きな品を頂きながら、次回は 10 月の平日に開催を約して解散しました。

＜上位 3 人の成績＞　　（HDCP は新ペリア方式）

順位	氏　　名	グロス	HDCP	ネット	ニアピン
優勝	廣田　進　（S 33）	98	21.6	76.4	小駒 基一郎（IN2 番/169ｙ） 神尾 常夫　（IN8 番/135ｙ） 阿蘇 秀男（OUT15 番/161ｙ） 廣田 進　（OUT17 番/201ｙ）
２位	武田　和夫（S 44）	98	21.6	76.4	
３位	河邊　喬　（S 42）	100	22.8	77.2	

☆カラオケ同好会☆　　廣田　眞一（２０名）

【世話役　加藤弘子（S39 年卒）　連絡先　朝木直子　azuchima@xc5.so-net.ne.jp　TEL 080-6739-0637】

かつてはカラオケが苦手でした。編集者時代、関西在住の作家はカラオケ好きが多く、打ち合わせを終えた夜は必ずカラオケバーへ。例えば田辺聖子さん。美しいソプラノで浪速の演歌を歌いあげ、当然、同席の者には順番が巡ってきます。歌わないわけにはいきません。当時はレパートリーいえば、学生時代耳にした加山雄三しかありません。「二人を夕闇が～」で「僕は幸せだなー」とごまかしていました。

馴染みのバーも、カラオケ無しの静かさを愛していたのですが、ある日突然、カラオケを入れると宣言さ

れました。客は大反対。ところが、しばらくすると誰もがマイクを握り歌いだしたのです。その巧いこと、みんな能ある鷹揃いだったのです。気がつけば自分もその仲間に。酔いは恥を忘れさせ、下手くそながらレパートリーも増えていき今日に至っています。

今でも酒がなければ歌えませんが、同じ塾出身同士、皆さん寛容の精神で調子っぱずれをやさしく許して大目に見てくれています。気持ちよく飲んで歌って楽しい時を過ごしませんか。

月１回、東村山東口のビックエコー(土日の夕方)又は、久米川駅南口・西友隣のカラオケバンバン（月曜昼の過ぎ）で実施しており、年１回は、東村山稲門会と合同で開催しています。

☆新体制☆

会　長：紿田　俊哉（S43 法）　副会長：熊谷　正美（S43 政）　副会長：斉藤　忠義(S44 商)
幹事長：田中　康之（S52 経）　会　計：相川　孝訓（S51 工）　監　査：櫻井　正廣(S46 経)
役　員：加藤　弘子（S39 文）　廣田　眞一（S45 政）
　　岡崎　尋幸（S47 経）　朝木　直子（H 4 文）

☆活動を予定している東村山三田会の活動☆

7 月 14 日　誕生会　対象は 4，5，6，7 月生まれの会員
7 月 28 日　ブルーベリーを摘む会　野崎農園
12 月 23 日　忘年会　サンパルネ 2 階ホール
他に 10 月に日帰りバス旅行または日吉旧海軍施設見学等を計画中

☆４月１日現在の総会員数　８５名
新入会員　１名　大森 雄治君（Ｈ１０政策）

★会員通信　原稿募集！！

会員の皆様からの原稿や写真を募集致します。テーマは「塾、東村山」を始め、特に限定は致しません。掲載の可否は役員会で決定致します。誌面の都合上写真の取捨選択を含め若干の手直しをお任せ頂きたいと存じます。文字数は 200～400 字程度で「氏名、卒年、学部」を添えて次の応募先に応募してください。

郵　送：〒189-0014　東村山市本町 3-9-10　東村山三田会　会員通信 原稿応募係　廣田眞一
メール：　higasimurayama_mitakai@yahoo.co.jp

編集後記　今号は、小島安雄さんが、塾卒業５０年の招待式典について寄稿してくれました。

会員の皆様に積極的参加していただくことによって、会はより活性化していきます。
これからも投稿は大歓迎ですので、よろしくお願いいたします。
同好会はいつでも参加をお待ちしております。世話役にご連絡ください